

令和5年度第1回 浦安市児童センター運営懇談会

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 令和5年7月27日(木)午後6時～7時
- 開催場所 東野児童センター 視聴覚室
- 出席者
 - (委員) 瀬尾会長(浦安市小中学校校長会)
 - 池島委員(民間有識者 浦安子ども劇場)
 - 田中委員(民間有識者 よみきかせサークル ルフラン)
 - 金子委員(民間有識者 浦安市母子保健推進員)
 - 村林委員(民間有識者 浦安市母子保健推進員)
 - 濱口委員(浦安市民生委員児童委員協議会)
 - 小林委員(浦安市民生委員児童委員協議会)
 - 坂本委員(浦安市青少年相談員連絡協議会)
 - 飯塚委員(健康こども部青少年課長)
 - (事務局) 健康こども部児童センター 斉藤所長
 - 東野児童センター 井田・太田・片倉
 - 高洲児童センター 杉町・後藤・宇田川・本多・内田

- 開式
 - 自己紹介(委員・事務局)
 - 会長挨拶(瀬尾会長)
 - 議事
 - (1) 令和4年度事業報告
 - (2) 令和5年度事業計画
 - (3) その他
- 閉会

- 開式 事務局より
本日は委員 12 名のうち、9名が出席。設置要綱第7条第2項により会議は成立する。
- 当懇談会の傍聴希望者なし。
- 自己紹介
- 議事

(1) 令和4年度 事業報告について

東野児童センター

健全育成事業について(P7、8)

行動制限などが緩和されたことから、令和3年度のときより多くの事業を実施することができた。なお、令和4年4月が市の方針によりイベント制限期間だったこともあり、予約不要で入れるお楽しみ工作と電車遊び以外の事業は実施していない。

子育て支援事業について(P10)

特定の人だけが恩恵を受ける登録制ではなく、広く多くの人に利用していただくため事前予約制の事業を行った。なお、令和4年4月のイベント制限期間により事業が制限されていたため、相談事業となる助産師相談会のみ実施した。

地域貢献事業について(P12)

記載のとおり。

高洲児童センター

健全育成事業について(P16、17)

令和4年5月から少しずつ事業を開始していき、5月5日に行ったこどもの日イベントを皮切りに、密にならないようにしながら、マジックショー、人形劇、HIPHOPダンスなどの講師をお招きする事業を実施した。

体力増進事業として、青少年課が秋に開催するモルック大会に先駆けて、モルックのルール等を学ぶモルック体験を実施した。

子育て支援事業について(P18)

年間をとおして、平日の午前中は子育て支援事業を実施している。限られたスペースを使い、赤ちゃんサロン・よちよちタイム・親子で遊ぼうなど、成長の過程で参加できる事業が変わるようになっている。

育児中の母親のセルフケアに役立てるよう、足つぼマッサージを体験する機会も設けた。利用者からは有意義な時間になったと感想をいただいた。

地域貢献事業について(P19)

一つ目として、(写真を提示し、)お助けネット・こんぺいとうの活動の様子を紹介。

二つ目に、明海の丘公園クラブからラベンダーのおすそ分けがあり、サシェを作るなどして、

地域のつながりをもつことができた。また、老人クラブ「ベインニア浦安」の会員から将棋や昔遊びを教えてもらい、三世代での交流ができた。

◎質疑応答

会長:事業報告について質問等はないか。

委員:4ページの利用実績のグラフはコロナ禍とその後の利用の変化を見せていると思うが、色が同じで見づらい。利用の変化があれば教えてほしい。高洲は年度後半になって増えてきている。

所長:高洲のように後半に向けて綺麗にスライドしているわけではない。東野は児童の遊びの主流がドッジボールであり、当時まだできなかったため、前までとのギャップがあるため、来館が続かなかった。今はドッジボールができるようになり、夏休みは200人近い人数が来館している。遊びが戻らなかったことが、きれいな来館者増にならなかった。

高洲については卓球が主流。継続的に卓球ができていたため、少しずつ来館者が増えたのではないかと思う。

(2) 令和5年度事業計画

●東野児童センター事業計画(P20)

新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類になったこともあり、令和4年度までは見送っていた事業についても行っていききたいと計画している。

ここからは、ビデオをご覧いただきながら事業紹介をする。

こども健全育成事業

・キッズスタッフ

キッズスタッフは、「共同作業を通じ、他校間、異学年との交流をもち、協力して行うことの楽しさや達成感を味わう」ことを目的とした登録制の事業。コロナ禍の影響で活動を見送っていたが、令和5年度より再開した。

5/5のこどもの日まつり、6/15の県民の日まつりで活動し、このときは企画や準備は職員が行った。今後行われるイベントについては、キッズスタッフ自身で企画から関わってもらおうと計画している。

子育て支援事業

・プレスクール わくわくクラブ

2歳児の子どもを対象に、登録制、4月・9月・12月スタートの3期に分かれて実施する。幼稚園・保育園・こども園に入園する前のプレスクールで、集団に慣れる・友達と一緒に遊ぶことを目的としている。

保護者や保育者に見守られながら、自分がしたい遊びを楽しむ。1人で楽しむのもいいけれど、近くに人がいても気にしない、なんだか楽しいと思える体験をできるようにしてまいりたい。

・フルーツキャンディー

自由参加の事業で、対象は未就学児と保護者。親子が向き合っ楽しい時間を過ごす。いろいろな経験をしていく中で子どもの発達を促す。などを目的として実施している。

この事業の特徴の一つが、誕生児をみんなで祝うということ。必ず自分の番が回ってくるので、親子とも楽しみにしている。

今後も多くの親子が楽しく過ごしていただける遊びをたくさん提供する。また、事業をとおり、信頼関係を築きながら、何か困りごとがあれば気軽に話すことができる存在になりたいと思っている。

●高洲児童センター事業計画(P21、22)

今年度4月1日にこども家庭庁が発足した。こどもが真ん中の社会を実現するために、子どもの視点に立って意見を聞いたり、こどもにとっての利益、こどもと家庭の福祉や健康の向上を図っていくということで、児童センターとして、こどもたちに寄り添って邁進していきたいと思う。

こども健全育成事業

・鬼ごっこする人この指とまれ

昨年度、幼稚園～高校生までアンケートを実施したところ、小学生から「鬼ごっこ」をしたいという意見があった。高洲公民館が複合施設であることの利点を活かし、運動室を使って、学年・学校・年齢などの垣根のない鬼ごっこの大会を実施する予定。

・県民の日まつり

千葉県が150周年ということもあり、チーバくんを呼び、手持ちのグッズを用意して写真撮影する事業を実施した。

・君もチャレンジ

毎月1回、テーマを決めてチャレンジ大会を行っている。

(写真を提示)ギネス世界記録では鉛筆を44本立てるという記録があったことから、子ども達に同様のチャレンジに挑戦してもらった。

・人形劇

委員である田中氏に人形劇を依頼しており、参加型の劇ということで、キッズスタッフが事前練習を行っている。

・今月の工作

昨今 SDGs と言われているが、高洲児童センターでも身近な素材を使って工作を行っている。子ども達は身近で簡単にできるので、その子なりに工夫して作り、満足感を味わっていた。こうしたエコ活動を意図的に取り組み、家庭でも取り組んでいただけるよう、今後も働きかけていく。

子育て支援事業

・親子で遊ぼう

2歳児の親子で参加できる事業である。運動遊びや製作・リズム・手遊びなど、子ども達が喜んで取り組んでいけるよう、内容を変えながら行っている。

幼児の不安な気持ちや楽しい気持ちなど様々な思いを受け止めつつ、楽しさを知ってもらえるよう、遊びをたくさん経験させている。また、地域の幅を広げられるよう、情報交換の場となる他、親もリフレッシュできる時間となるようにしている。

10月からは、親子事業を登録制とし、ともに親子で楽しめるように準備している。

・赤ちゃんサロン

歩き始めるまでの子を対象としている。今年度より開催時間を長くし、人数制限をなくしたことで、子どものその時の状態に合わせて参加できるようにしている。

絵本の時間や、ふれあい遊び、わらべうた、手遊びなど、親子でスキンシップを図り和やかな時間となっている。

また、月に一度助産師を招き、専門職からのアドバイスが受けられる機会も設けている。

・よちよちタイム

歩き始めから2歳程度を対象とした事業である。体を使って遊ぶことができる場所を保障し、親子が遊べ、保護者の友達作りの場を提供している。また、孤立化防止、地域の安心できる場所となるよう事業を推進している。

年に6回、栄養士・保健師・歯科衛生士の専門職に来ていただき、様々な相談に応じている。

地域貢献事業

・お助けねっとこんぺいとう「おさがりひろば」

お助けネットこんぺいとうが、タンスの中で眠っている洋服を活用できないかと、「おさがりひろば」として事業を始めた。0歳児～120cm程度の洋服を利用者から集め、提供者はその場から好きな服を持ち帰れる。

前回好評だったため、次回9月に第2回目を行う予定。

・おもちゃの病院

高洲児童センターでは初の試みとして行っている。大切なおもちゃが壊れてしまったとしても、ドクターに修理してもらうことで、お子さんたちにまた素敵な笑顔が戻ってきたのではないかと思う。

◎質疑応答

会長:事業計画について質問はないか。

委員:キッズスタッフの活動が再開して嬉しく思う。東野児童センターの県民の日に行ったスポーツオセロで、キッズスタッフがハンデをつけたということだが、子ども達から自主的に言ったのか、職員から提案したのか。

職員:キッズスタッフ本人ではなく、職員から提案したと記憶している。

会長:体育の授業のときに、「みんなで楽しむにはどうしたらいいか」と声かけをしている。是非、どうしたらいいか、の声掛けをしてくれると嬉しい。

委員:活動が充実していて素晴らしいと思った。東野児童センターの地域貢献事業の中にある、実習生の受け入れはどのような活動か。

所長:将来保育士になる学生が市内在住であれば受け入れている。市川市も受け入れている。今年度は東野で1人受け入れる予定で、毎年両センターで受け入れている。インターンシップではなく実習生として受けている。

委員:おさがりひろばは、ただもらうだけでなく、持ってきたものと交換ということで減ることがない、次回もできることが良いと思った。5月9日と、季節の変わり目に企画していて、他でもできたら良いと思った。

所長:今回紹介はしていないが、東野でも行っており、ほこほこという団体が何年も前から行っている。

会長:最後に、事業報告、計画以外で質問はないか。

委員:赤ちゃん訪問でも母親の意識が変わってきていると感じる。解放的になってきており、マスク外して出てこられる方がほとんどで、中に案内していただける方も増えている。コロナが明けたことによる活気は回復しているか。

所長:コロナ禍明けの波に乗ってマスクを取っている。現在はほとんどマスクをせず、ドッジボールや卓球を楽しんでいる。コロナ禍が明けた楽しい夏休みを感じているように見える。

委員:コロナ前は子育てサロンでもたくさんいたところ、コロナ禍を経て人数が減ってしまった。児童センターの宣伝をするも、距離が遠いという回答をよく聞く。東野地区の親と話すと、親は子どもが安心して行ける。子どもは、行けば誰かに合えると認識しているようである。

委員:赤ちゃん訪問している中で、訪問先で児童センターを宣伝していきたい。名前を聞いても場所がわからない母親も多く、そういった方にお薦めできればと思う。

所長:母子手帳に、手形足形をとれるページがある。児童センターではいつでも手形足形をとれるので、ぜひ遊びに来ていただきたいと思う。

委員:ここに行けていない層も一部いて心配になりながら会議を聴いていた。場所を知るという意味で、行ったことない公園などに行ける、市の資源を知る機会になるのがいいと思った。一方で、尾道市のニュースのように、新米ママにプレッシャーになるような内容の記事を載せるという問題があった。各部署が連携できればよりよくなると思う。

委員:施設を知らないというケースがけっこうある。これをどうPRするかが課題になると思う。

会長:昨年度学校であった、この施設を知ってますか、のアンケートについて、この施設はここにあるよと説明するのが大変だったと担任から言われた。アンケートで知ってその施設に行った児童もいたよう。そういうところも宣伝の一つかもしれない。

議事終了

(3)その他

事務局:以上をもって、閉会する。

○ 閉会